

「神崎川ナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦（印旛沼クリーン大作戦）」

～印旛沼流域の治水リスク軽減をめざして～

令和元年8月8日～10日の3日間、千葉県印西市と八千代市の境を流れ、印旛沼に流れ込む神崎川(かんだきがわ)で、特定外来生物である「ナガエツルノゲイトウ」の駆除を行うナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦（印旛沼クリーン大作戦）が開催されました。

この大作戦は、印旛沼流域水循環健全化会議とNPO法人国際ボランティア学生協会(IVUSA「イビューサ」)の共催により、今回が4年目の開催となりました。全国各地から集結したIVUSAメンバーの大学生ら約100名を中心として健全化会議メンバーの他、地元の大学生などが参加し、3日間にわたり神崎川(印西市武西地先)にて駆除作業を行い、わが千葉用水総合管理所からも職員21名とボート1艘が応援として参加しました。



作業前打ち合わせ

「ナガエツルノゲイトウ」は、印旛沼に流入する河川等で大きく生長(増殖)し、大雨の際に印旛沼の水位を下げるためにポンプを運転中の大和田機場に群落ごと漂着し、排水障害が発生する原因となっています。また、排水障害だけでなく、水田に入り込み稲作にも支障を来しています。これらは印旛沼周辺地域にとって深刻なリスクとなっており、これらのリスク軽減のため、大学生らがボランティア活動として、泥まみれ、汗だくとなって奮闘し、約9tにも及ぶ群落を駆除し、事故等もなく無事終了しました。



ボートと人力での
ナガエ大群落運搬風景



引き揚げ作業



詰め込み作業



運搬作業

しかしながら、この外来生物は今回の駆除活動のみで撲滅することは不可能に近いと見られ、継続的な駆除が必要となります。これらの駆除活動を継続していくためには、印旛沼周辺地域の方々が自らのリスクとして認識を深めて頂き、地域活動として取り組むことが重要と考えています。IVUSAが目指す目的のひとつと位置づけている「地域の方々が地域の課題として気づききっかけ作り」でもあります。来年のクリーン大作戦には、周辺地域から更に多くの方々が参加していただけるよう、当管理所としてもPR活動を行い、ナガエツルノゲイトウ撲滅のために取り組んでいきます。



反省会の様子